

令和元年度 第2回河北町総合教育会議会議録

令和2年3月26日（木曜日）

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷俊雄 河北町教育長 板坂憲助

河北町教育委員 児玉康子 大山直子

欠席者（2名）丹野正英 和田茂樹

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 岸康彦 生涯学習課長 矢作勲 教育主幹(兼)指導主事 石山勝巳

指導主事 秋葉千絵 課長補佐(兼)管理係長 大泉正博

3 日 程

令和2年3月26日（水）午後3時 開会、開議 河北町役場3階・委員会室

1 開 会

2 森谷町長あいさつ

3 協 議

(1) 令和2年度施政方針及び教育方針について

4 その他

5 閉 会

1 開 会

○大泉課長補佐(兼)管理係長

ただいまより、令和元年度 第2回河北町総合教育会議を開催いたします。はじめに森谷町長のご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

○森谷町長

3月議会が終わりまして、まもなく新年度を迎えようとしております。昨日人事の内示をさせていただきました。コロナウイルスも含めて何かと例年とは違った年度末となっており、学校現場も非常に苦勞が多い中で新学期を迎える状況となっております。今日は、来年度の予算を

中心に説明申し上げます。教育委員会につきましても、子育て・教育支援の拡充を予算の大きな柱としております。忌憚のない意見を頂戴しながら、新年度からの町政運営の方にご意見を反映しながら執行していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○大泉課長補佐(兼)管理係長

それでは3協議に入らせていただきます。これより座長を森谷町長にお願いします。

3 協 議

○森谷町長

来年度の大きな予算の柱建てに沿ったポイント的なものを整理した資料があります。後ほどそれに基づいてご説明いたします。それから、河北町のまちづくりの指針として、活力あるまちづくりに向け「動く つながる 夢叶う」として、私のまちづくりの3つの柱をメッセージとして発信させていただきました。参考までにご確認いただければと思います。また、令和元年度からの新しい取り組みとして役場の組織見直しを行いました。「若者・女性・町民総活躍推進室」を政策推進課内へ、あと健康福祉課内に「子育て支援室」、商工観光課内に「かほく発信室」を新設し、去年4月にスタートしております。職員採用においても、人材確保の観点から「上級職」を新設して採用したところです。受験年齢もUターンIターンも含め幅広い年齢層の方から有為な人材を確保するため、年齢上限も上げて採用に臨んだところであります。そのほか、全庁的プロジェクト推進ということで3つのプロジェクト立ち上げております。一つは道路除雪にとどまらず、高齢世帯の対策や通学路等、多様なニーズに応えるべく、「総合雪対策プロジェクト」をスタートしております。もう一つは、町内におけるべに花の振興、景観づくり、如何にして紅花資料館としての価値を上げるか、べに花を栽培してくださる農家の確保や連携などを課題と捉えまして、「べに花振興のプロジェクト」を立ち上げました。あと、庁舎建設が来年の9月完成を目指し進めているところでありますが、それと合わせて「河北児童動物園のリノベーションプロジェクト」ということで、バリアフリーをはじめ安全・安心して遊べる動物園づくり、更には魅力ある動物園づくりを図っていききたいとの思いでプロジェクトを立ち上げ進めているところであります。令和2年度は、総合計画の最終年度、総合戦略の最終年度になります。そういった意味で、来年度は計画づくり、これからの河北まちづくりに向けた新庁舎建設も来年度の事業費が一番大きい年になります。まちづくりの指針づくりとともに、庁舎づくりも単に新しい庁舎を建設するというだけでなく、新しい役場づくりだと思っております。そこをしっかりとやっていく年になります。教育にも大きく絡んでくるわけですがけれども、人口減少の歯止めがききません。この人口減少を如何に食い止めるか。あと、安全安心して暮

らしていただけるまちづくりを引き続きしっかりやっていくか。この2つが私の頭の中でいっぱいあります。今までだと、東京を中心に進学した子ども達を河北町に呼び込めない状況下で、都心部からのIターンUターン対策がこれまでの伝統的な人口対策だったと思います。ここ4・5年の動向をみると、自然動態は同じですが、仕事が河北町にある、或いは周辺の山形・天童・東根・寒河江などの近いところに仕事がある、或いは見つかった、でも河北町に住まないで周辺の町外で社会人のスタートを切る。或いは結婚生活のスタートを切る。子育てのスタートを切る。そういった傾向があることは自分の周りを見ても実感としてあります。数字として、県外の転出以上に町内への転入が少なくなっているという現実があり、県内に戻ってきても町内に戻ってきていないというところは、数字的にも裏付けがなされていて、この点もっと分析する必要があると思っております。結婚した後、仕事を続けながら地域で子育てができる環境が整っているか、交通の面でも、教育環境面でも、子育て支援面でも、子育て環境面でも、河北町で新しい生活のスタートを切ってもらい、再スタートをしてもらうというところの取り組みをもっと意識してやっていく必要があります。そういった観点で、3つの柱で予算を組みました。一つ目が災害の備え、二つ目が子育て・教育支援の充実、三つ目が「かほく創生」への取り組みです。予算的には96億を超える予算になりまして、うち庁舎建設が10億位ありますので、その要因が大きいんですが、過去最大の予算になっております。コロナ問題とか消費税率引き上げの後の問題とか、いろいろ景気が沈んで税収がどうなっていくか、国・県・町を通して税収面で大変な部分も考えられますので、財政運営的にも厳しい一年になるかなと思いつつ、しっかりと96億円の予算を最大限活用して、厳しい中ではありますが、遠くに光が見えるような取り組みをやっていければと思います。一つ目の災害への備えであります。河北町の場合は、最上川と寒河江川、そして山から囲まれている町として、洪水への備えを中心に、迅速に逃げさせていただくための災害情報を如何に迅速に伝えるか。避難するためのハザードマップによって、みなさんに如何に防災意識をもってもらえるか。一人では逃げられない、支援しなければならぬ人たちの命をどう守るか。この三本柱で災害の方は進めていくということでもあります。二つ目は、子育て・教育支援の拡充であります。引き続きこれまでの支援を維持しながら、新たな経済的負担の軽減として、昨年まで中学生まで医療費無料化だったわけですが、町単独で1,400万ほど予算を確保して、トータルで8,788万円高校生までの医療費の無償化に新年度から踏み切ることいたしました。あと、学校給食費について、しっかりした給食を提供するということが保護者負担をお願いしなければならないという中で、負担軽減も含めて値上げ分プラス10円、1食あたり、小学生24円、中学生26円を支援するため543

万円を予算化したところです。高校生等の通学支援であります。今回、山交バス沿線だけの通学支援なのかというようなご指摘もありましたが、町営バスなりをどう手当てするかは今後の課題ではありますが、山交バスの定期券購入者に対する支援をするということで120万円予算措置しました。あと、子育て支援策の拡充ということで、産後ケア事業を新たに予算化しております。教育環境では、来年度から小学校5・6年生で英語が教科化されることから、英語指導助手の質的向上を図るという意味で予算措置をしております。あと額的には小さいですが、令和3年度からのコミュニティ・スクール導入に向けた準備に要する経費について予算化しております。3月議会があったわけですが、教育に対する質問が多くありました。ポイントは、一つはコミュニティ・スクールで、今の学校評議員とどう変わっていくのか。どういったメンバーの人がそれを担っていくのか。というような観点での質疑を受けました。あともう一つは少子化が進んでいる中で、今後数年の中で、中部小学校と南部小学校以外で、複式学級が順次入っていくと見込まれる状況にある中で、その課題はということと、学校の再編問題についてどう考えていくのか、というような趣旨のご質問がありました。学校再編につきましては、今の現状の中で、これまでの議論の整理を踏まえたうえで、今の立ち位置で、しっかり議論を進めていく必要があるという認識は、みなさん共通しているのではないかと、ただ、減ってるから再編なんだと短絡的にいくのではなく、丁寧に議論していく必要があるのだろうというような答弁をしている状況です。当面、来年度策定する総合計画にどう今後に向けた考え方を整理していくのか。その後どういうステップを踏みながら議論していくのか。統合ありきとか、そういう話でなくて、少子化が進んでいる現実の中で、複式学級化を迎える現実を見据えながら、小学校教育の在り方、本町における教育の在り方をしっかり議論していく必要があると思います。あと、三つ目の「かほく創生」の取り組みについては、新たな農商工観光連携による挑戦、地域商社、道の駅、関係人口、移住対策等を掲げております。これまでの農業振興、或いは商業振興、ものづくり振興、そういった産業振興、企業誘致に加えて、新たな手法での新たな仕事づくりを仕掛けていこうと考えております。8次総合計画から本格化するのは令和3年度からのまちづくりになりますけれども、将来につながる芽出し来年度できればと思います。私からは以上となります。引き続き、教育長から教育方針をお願いします。

○板坂教育長

町長から3本柱、令和2年度の方針があったわけですが、その2つ目の柱の子育て・教育支援の拡充ということで、学校給食、それから英語教育の充実とコミュニティ・スクール導入等にご配慮いただいております。そういったところを受けまして、教育の大綱として第2次河北町

教育振興計画に基づきまして、教育行政を進めているわけでありまして。今の振興計画は、2017年（平成29年）に策定されまして、2026年までの10年計画であります。その中に示されているのが、施策の体系ということで基本目標「ふるさとに学び、互いに高め合いながら、いきいきと未来をひらく人づくり」を目標に基本方針6つを掲げ、さまざまな項目に渡り、教育の施策体系を作っております。この教育方針6つを受けまして、令和2年度バージョンに整理いたしました。基本方針Ⅰの中では、「いのちの教育」を柱にしながら、いじめ防止等に継続して取り組んでいこうということでありまして。いじめにつきましても、令和元年10月の調査においては、全国の認知件数が54万4千件に上る。前年度と比較すると13万件増えている状況にあります。ただ、認知するための条件を細かくしたために、数値的に増えてきたようでありまして。早期発見の現場での対応や継続しているいじめがなくなるよう引き続き取り組んでいく必要があります。読書活動・文化芸術活動の推進につきましては、第2次子どもの読書活動推進計画（改正版）が3月に完成しました。こころの育成には、読書が一番ということで、読書の強化も図っていきます。基本方針Ⅱになりますが、学校では、確かな学力の育成を最も重視しなければならないということで、新学習指導要領のねらいであります、主体的・対話的に解決していく「探究型学習」を推進してまいります。そのための指導様々ありますが、きめ細やかな指導の実践のために、学習・生活指導補助員を増員いただきまして、きめ細やかな指導にあたってまいります。学びやすい教育環境につきましては、令和元年度に熱中症対策として小中学校にエアコンを設置していただきました。快適な学習環境の下で学力向上を図ってまいります。それから、教職員の研修であります、コミュニティ・スクール設置を考え、令和3年度実施に向けて、研修或いは教職員保護者などに周知の徹底を図ってまいります。基本方針Ⅲになりますが、外国語教育の推進ということで、民間からALT2名を派遣し、外国語教育の充実を図ってまいります。合わせてAETについては2名体制で小学校における外国語活動の支援を継続していきます。2019年の12月にGIGAスクール構想が国から示されました。目標とされております一人1台タブレット等の導入につきましては、国の方針に則り国の支援制度を活用した計画を来年度の財政計画に加えたいと考えております。新しい教科書にはデジタル教科書とかプログラミング学習教育が必修化されておりますので、確実に整備し効果を上げていきたいと考えております。基本方針のⅣになりますが、地域人材を活用した教育活動の展開であります、地域と共にある学校をつくるために、コミュニティ・スクール導入の設置を目指した研修を深めていきたいと考えております。基本方針Ⅴになりますが、地域に根ざした生涯学習社会を築くということで、町内に残る数々の郷土の歴史伝統芸能文化財を大いに活

用を図っていきたいと思います。そのために、地域の方々の専門的な人を活用しながら、生涯学習教育を深めていきたいと思います。先ほど読書計画の話がありましたが、ブックスタート事業を継続し小さい頃からの読書に親しむ習慣をつけてまいりたいと思っております。町の財産のプラネタリウムであります、東北に3・4箇所しか無いという施設でありますので、これを大いに活用を図りたいと思います。それから、町民プールにつきましては、利用促進を図っていきたいと思います。生涯運動、健康づくりにつなげてまいりたいと思います。まとめて申し上げますと、令和2年度の重点を4つ程考えております。一点目が、学校における働き方改革これが具体化して動き出しておりますので、これを継続発展してまいります。二点目は、コミュニティ・スクール実現に向けて準備段階の年になります。アクションプランそれから保護者への周知など令和3年度4月からスムーズにスタートできるように準備を整えてまいりたい。三点目は、ICTの利活用と小学校における教科担任制の推進であります。四点目は、令和2年から小学校において新学習指導要領が実施、令和3年度は中学校が実施されます。その新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進であります。この4つを令和2年度の柱として教育行政を進めてまいります。

○森谷町長

教育方針関係を中心に私の話に対するものでも結構ですので、確認したいこととかご意見とか伺えればと思います。

○児玉委員

町政の方で今気になっているのがコロナウイルスの件があると思うのですが、例えば防災という災害の備えを一番に謳われているわけですが、災害というのは土砂崩れとか自然災害だけでなく、今回のコロナ騒動のようなことが今後感染症としていっぱい出てくるだろうということもあると考えると、そういうものも含んだ災害への備えという点はどうなんだろうということが一点であります。例えば今回いろいろ起きてるときに行政の取り組みを見ても何かして下さい。お願いします。など弱弱しい。後から今検討しますと言いながらも、どの時点でどう出てくるのか。少し後手後手のような感じがするんですけども。例えばその辺りは町として積極的に河北病院と連携した取り組みの方針などご予定があるのかということが一点、令和2年度における教育行政重点のお話があったわけですが、一つはコミュニティ・スクールの話はこれまでも聞いてきましたが、その「河北らしさ」例えば、河北町には教員の人がたくさん居たり、或いは地域密着の学校がととても多くて地域の方々から協力を得ながらやってきているので、その中でもなお、河北町らしくもっていくコミュニティ・スクールというのはどうあるんだろ

うなということについてのお考えをお聞きしたいと思います。もう一点が、「河北らしさ」も含めてですが、英語でもICTでも、この町に住みたい。この町でなければならない。安心のことも含めて、河北だからこれを強く言えるようなものにしていくために、例えば、英語であれば、なぜ今英語なのか、文科省で出てきた英語教育だけのためではなく、もっと一歩踏み込んだ何かできないのかなと思います。必要感がなければ結局は上から言われたことをこなすのではなくて、前に進んでいくような形のものがないのかなと思っております。「河北らしさ」をどうしていくんだろうなということをお聞きできればと思います。

○大山委員

最近、コロナウイルスでいろいろありますが、子どもが家にずっといることにより、凄くストレスが溜まっていると思います。結局、家にいることが安全なんだろうということだと思いますが、面倒見る家庭はいいと思いますが、一人親とか共働きの世帯が大変だろうと思います。例えば、河北町ではこういったことがありますとか、ニュースを見たりして感じております。学校に行ってみて、すごくいろんな意味で問題を抱えている子どもが多いと思います。グレーな子どもが多くなってきており、一つのクラスにグレーな子どもが3人いるとすごい大変な感じで、そこに、学習生活指導補助員がついているクラスとついていないクラスというのがあると思うのですが、そういうところをなるべく手当できるようにしていただきたいと思います。AETの仕事をしていただくことがあるのですが、学校の雰囲気とか教師の雰囲気によって、いろいろ差があるのですが、どこへ向かっていけばいいんだろうと思う時がたまにあります。ゴールがないというのではなくて、ただ教科書を最初のページから最後のページまで通せばそれでいいのか。ただども、終わすことは簡単ではないですが、彼ら彼女らにとってどれくらい身についたかわからない。町として具体的に目指すもの示し取り組んでいくともう少し違うのかなと思ったりすることがあります。

○森谷町長

ありがとうございました。私とすれば、災害だけでなく、今回のような感染症も含めて、危機管理ということだと思います。世界的に見ればパンデミックという状況です。北海道、愛知、そして、神戸、大阪とあって、今は東京です。国も法律に基づく本部に今日切り替え、閣議決定を持ち回りでやるという話になっています。ただ直ぐ、非常事態宣言にはならないようですが、東京がどうなるのか凄く心配しております。日本での危機管理というのは、まだまだ確立されていない。そういう中で、医療機関とか医療保険制度も含めてですが、医療体制がしっかりしているというところは強みです。死亡者の数とか感染者の増え方とか、収束は見えません

が、それぞれの役割分担のもとで教育行政として、医療行政としてしっかりやっている。ただ、危機管理の機動性となると欧米と比べ甘い部分があるのかもしれませんが。そういう中で、国、県、市町村のそれぞれの役割の中で、市町村の役割は、住民に対して、如何に情報を適切に伝えるか、予防対策だとか、住民のとるべき行動について、発信していくという部分だと思いますが、大事なのはこういった広域的なものになってきた時に、国・県・市町村の役割の中でしっかりと体制をつくっていく必要がありますし、自治体間の連携をしっかり構築することも大事だと思います。今、山形県でも発生していない、町内でも発生していない中ではありますが、2月25日から本部を立ち上げて、一週間に2回くらいは会議をやりながら、イベントの中止とか学校の対応とか、横の連絡をとって対応しているというのが現状です。感染症の対策も含めてもっともっと具体的に対応できる体制というものを身に付けていく必要があると思います。

○児玉委員

今お聞きして発信というところで、何回も会議をなされて対応しているというのは一般の人は知らないと思いますので、今おっしゃるように、例えば役割分担があって、町としてはしっかりとこういうところをやられているということは、私たちが安心して河北町って良い町だなと、そういう面からも安全の面からも良い町だなと思えたらとっても良いなと思ってお聞きしたところです。

○森谷町長

町報とかチラシとかで周知したり、ホームページを見ていただくと、いろんな情報をつないでやっております。如何に、住民に近いところで、町の役割を果たしていくかということだと思います。

○板坂教育長

コミュニティ・スクールの「河北らしさ」についてであります。趣旨は教育委員会で教育主幹から説明あったとおりで、「地域と共にある学校」もっともっと地域の方々からの教育力をお借りして、責任をもって学校のある部分、全てではなくある部分に対して責任をもって、参画してもらおうというのが趣旨になります。私が考えているのは、谷地西部小は谷地西部小なり或いは北谷地小は北谷地小なりに地域らしさがあると思います。このコミュニティ・スクールの導入することによって、軌道に乗った暁には、谷地西部小らしさ北谷地小らしさが出てくると思います。そういったところを狙っております。最初から「河北らしさ」を求めるのではなくて、コミュニティ・スクールの趣旨を生かして、地域の方々自身をもって学校教育活動に

参加して下さってそうした暁には、そういったらしさがでてくるのではないかということに期待しております。それぞれの学校に特色があると思います。その特色というものは地域らしさを一番知っているのは地域の人ではないか、特に学校の先生は、地域出身であればいいんですが、地域を知らない先生が残念ながらいるということ。そこをクリアするためにも、コミュニティ・スクールをもっともっと軌道に乗らせて、そういったところを狙いたいと思っております。あと、なぜ今英語なのかということはこの導入するにあたって、小学校高学年において英語が必修教科化になるということ。このチャンス来年度から始まるということで、そのチャンスのスタッフと合わせて、訓練されたALT 2人を派遣して英語好きな子どもを育てていき、それを引き継ぎながら中学校でも花咲くようにしたい。また、谷地西部小学校の多目的ホールを利用した英会話推進事業があります。その活動にも大いに参加していただき、事業を発展させたいという狙いがあります。あと、子どものストレスについてであります。臨時休校が始まって、子どももストレスを抱える状況にあり、学校の先生方をお願いして、家庭訪問、学校に中間登校してもらって、生活状況、学習状況の把握などをがんばっていただきました。こういった新型コロナウイルスの状況で何々してはいけないというようなことが多すぎると、ストレスを抱えることにつながるんだなと思っていました。学校が普通どおり始まりますと、普通どおりではなくて、その中でも新型コロナウイルスのチェック項目がたくさんあって、チェック項目を考慮しながら、運動とか遊びとかでストレスを解消してもらいたいと思っております。あと、問題を抱える子、グレーな子どもがたくさんいると学校経営は大変なことになると思っていて、そのための学習生活補助員を配置し、その子の観察をしながら寄り添うきめ細やかな指導をしていただきたいということと合わせて、スクールカウンセラーとか教育相談員もいますのでその方のフル活用をお願いしたいと思っております。あと、ゴールが見えない指導については、教員の授業の仕方で、この授業が終わった時、出口はどういう姿になっていけばいいんだということを、はっきりと明示した授業が求められていると思っております。

○石山教育主幹

大山委員がおっしゃった、どこへ向かっていけばいいのかというのは、コミュニティ・スクールともつながるところがありまして、教育長からお答えいただいた「らしさ」をつくっていく時に、教員と運営協議会の委員の人たちが集まって話し合いをすることになるのですが、熟議と言ったりするのですが、学校で面倒見ている子どもたちにどんな資質能力、力を付けたいかということ的前提にスタートするので、そこで向かっていきたいところを、共有していくというのがその学校の「らしさ」に繋がっていくものと思っております。あと、ALTについてで

すが、これまで社会教育関係については殆ど活用できなかったのですが、新しいALTとの契約の話の中では、KGKの部分とか一般町民向け事業へも携わっていただくようにしています。あと、子どもたちが家の中でじっと我慢して頑張ってきたのですが、明日対策本部会議あります。3月過ぎると動きが変わってきます。例えば、部活動は再開する方向にあります。そうになると、スポ少も再開してくるようになると思います。使える場所も変わってくるので、逆に運動を奨励していくような時期に入ってくる中で、コロナウイルス対策をするという難しい時期に入ってきます。

○児玉委員

大山委員とも話をしたのですが、英語教育をやったとして学校でその時は喋って良いと、だけどそれが何っていうか、結局大人のスクールに行って、その時喋ったけどそれが何っていうか、それがどこに結び付いていくのかとか、そういうところを私たちがもっともって、河北の英語教育を進めていくということでない、何となくそのままで終わっちゃうのかなということさっき喋っていたんです。そうした時に、英語を楽しむ親しむというところを狙うというのはわかりました。そのもう一つ先に、例えばどんどん話せるようにしていくのを目指す。外国の人が来たらこういうところまでできるとか、何かあるともう一步英語教育が進むのかなという話をしていたもので、ゴールのところが出たのかというように思いました。

○大山委員

何となくその場その場で終わりにしたくない思いはあるのですが、例えば3年生4年生を教えて5年生6年生は今年から教科になりますが、中学校に上がると中学校1年生は恐らく、高校受験に向かっての英語になると思うので、そうそう英会話って関係ないかなあと思っている自分もいて、どちらかという単語をいっぱい覚えたほうが有利だとか、文法とかそういう並べとかそういうようなものを覚えたほうが、受験に有利なのかなあと思うところがあって、高校受験が変わってもらわないという思いがあって、例えば今ユーチューブとか流行っていますので、外国の歌とか外国人のタレントさんを見て英語を覚えたいという子がいたとして、そういう子どもがどんどん英語を覚えていくとなった時に活用するところがあつたらいいなあと思ったりする自分もいて、例えば、紅花資料館に外国人が来た時にどこかの小学校の児童が紅花資料館を英語で案内するということができたらいいなとか、いろいろ思ったりします。英語教育について町として踏み込んだものがあつたらいいなと思います。

○森谷町長

教育は、多様な、多彩な能力を如何に伸ばすかというところが一つ大切だと思います。あとも

う一つは、自分自信をもって、自分を大事にして、同じように、周りの人も、仲間も大事にする、自分も周りをリスペクトすること。三つ目が、変化に対応して生き抜く力、生き残っていく力をつけること。そういった意味で、教育をどういうふうに、どこを目指すのか、ということころは、この3つから生まれてくるんだろうなと思います。英語というところではありますが、私も社会人になって思うのは、英語をもっと話せたら自分の人生どれほど楽しかったらと思う。外国に行った時もそうだったし、実際仕事で外国からのお客さんを迎える時も、コミュニケーションをとるとき、英語が喋れたら、理解できたら、どれだけ楽しい時間になったらと思うと、それがコミュニケーションをうまくとれなくて、つらい時間になってしまったという経験をしました。そういう意味からいうと、どういう場面でも、子どもでも大人でも、先ほどリスペクトと言いましたが、周りには昔以上に外国の方と会うチャンス、会う機会が必然的に増えてくると思うので、外国に出かけなくても外国の方がいらっしゃる時代なので、そういう意味からすると受験英語だけでなく、英語を介して世界中の人とコミュニケーションがとれるように、自分ができなかった英語学習教育をこれからの子どもたちには培ってもらおうと嬉しく思います。

そのほか何かあればお願いします。(なし)

4 その他

5 閉会

○大泉課長補佐(兼)管理係長

これをもちまして、令和元年度 第2回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後4時20分